ごあいさつ

すべては「楽しい！」のために

当社のブランドスローガンである"すべては「楽しい！」のために"には、当社の活動はすべて、皆様に「楽しい！」と感じていただくためにある、という思いを込めています。私たちは、良質な製品・サービスにとどまらず、企業活動全般を通じて、当社に関係するすべての皆様に「楽しい！」をお届けしてまいります。

当社は1969（昭和44）年にユニバーサルリース株式会社として創業以来、「楽しい！」を追求し続け、国内のみならず世界を舞台に、グローバルエンターテインメント企業として邁進してまいりました。
2009（平成21）年、創業40周年の節目に「アルゼ株式会社」から「株式会社ユニバーサルエンターテインメント」へと社名を変更し、2019年12月2日をもって創業50周年を迎えることができました。当社を応援してくださるすべての方々への感謝と初心を忘れず、当社の原点である「楽しい！」を創造し、社員一丸となって一層良質なエンターテインメントを追求してまいります。

当社グループの中心事業の一つである遊技機事業は、マーケットの変化も激しく、その変化に対応するのは容易ではありません。

しかし、私たちが創業以来蓄積した経験、企画・開発力は業界トップ水準にあると自負しております。今後も、情報収集と分析によって、マーケットのトレンドやユーザーのニーズを開発に反映し、出玉性能に優れ、ユーザーの皆様・ホールの皆様双方に喜んでいただける「楽しい！」機械を提供することで、業界の発展に注力し続けます。

また、海外では、フィリピンにおける統合型リゾート（IR）事業「OKADA　MANILA」を着々と推進しております。アジアにおけるエンターテインメント産業の成長を確信する私たちは、カジノだけでなく、ラグジュアリーなホテルや世界最大級の噴水など、様々なエンターテインメント施設を備えた、従来のカジノの概念を覆すような新しく魅力ある世界でも有数のエンターテインメント・リゾートの創造を目指してまいります。

当社の使命は、世代や性別、国境を越えて、世界中の人々に健全な娯楽を提供することです。新しい価値観を創造するユニバーサルエンターテインメントの「楽しい！」に、今後も、ぜひご期待ください。

株式会社ユニバーサルエンターテインメント

代表取締役社長　**徳田　一**

UNIVERSAL ENTERTAINMENT

事業紹介

エンターテインメントのあり方は、時代とともに多様化しています。
私たちは、創業以来培ってきた鋭い洞察力と深い知見によって
これからも価値あるエンターテインメントを創造し、
グループ一丸となって「楽しい！」を追求してまいります。

2つの事業を中心に躍進する
ユニバーサルエンターテインメントグループ

当社グループは、国内での遊技機事業、フィリピンでの統合型リゾート(IR)事業「OKADA MANILA®」をコアビジネスとして位置づけています。
なお、グループ会社と各事業の関係は、以下の通りです。

遊技機事業

グループ会社の経営統括。
パチスロ・パチンコ機および周辺機器等の研究・開発・製造・販売
ユニバーサルエンターテインメント

パチスロ・パチンコ機の開発・製造
メーシー
エレコ
ミズホ
アクロス
ユニバーサルブロス

統合型リゾート(IR)事業

フィリピン・マニラでの統合型リゾート(IR)施設「OKADA MANILA®」の開発・運営
TIGER RESORT, LEISURE AND ENTERTAINMENT, INC.

その他の事業

投資管理
ARUZE USA, Inc.

携帯電話やインターネット等における各種コンテンツの開発・販売
ユニバーサルエンターテインメント

「楽しい！」を提供する遊技機事業

当社は業界のパイオニアとして常に新規性のある遊技機を開発し、高い評価を得てきました。
その開発姿勢の根底には、徹底して「楽しい！」にこだわってきた「ものづくり」精神があります。
遊技機を通してファンの皆様やパチスロ・パチンコ業界全体の活性化に貢献していくことが、
当社の課題であり使命であると考えています。

業界のトップメーカーとして市場を牽引

遊技機業界では、ギャンブル等依存症対策基本法への対応の一環としてパチスロ・パチンコ機双方への改正規則が施行され、市場に導入されている旧規則機の設置が2022年1月末で終了し新規則機市場へ移行するという、大きな変革期を迎えました。パチスロ機では、新基準6.5号機が普及し、さらに2022年11月から順次投入されたスマート遊技機がパチンコホールの期待に応える稼働をするなど、新たな盛り上がりを見せています。

当社は、わかりやすいゲーム性とボーナスの連続性が魅力の「沖ドキ!シリーズ」、"リバイバル"をテーマにパチスロの原点に立ち返り、技術介入機を開発する「A PROJECT」など、幅広いラインナップでユーザーのニーズに応える機種の開発、販売に積極的に取り組んでおります。「楽しい！」にこだわった「ものづくり」精神で、これからも業界のトップメーカーとして、遊技機市場全体の活性化に貢献してまいります。

独自のDNAとマーケットリサーチに基づく機種開発

当社は1980年にパチスロ事業に進出、その後現在に至るまで数々のヒット機種を生み出し、業界のパイオニアとして常に新規性のある遊技機を開発、独自のコンテンツで業界を活性化してきました。

パチスロ機の開発においては、筐体ごとのコンセプトをもとに、リールや透過液晶、可動式役物等によるコラボレーションを活かし、図柄の組み合わせと連動したダイナミックな映像や音楽表現にこだわってきました。特に、パチスロ機の醍醐味である「出目」においては、「リーチ目」「チャンス目」を生み出す配列の構成と、見やすさを重視した図柄デザインの秀逸な組み合わせに特長があります。こうした歴史と伝統ある当社独自のDNAを引き継ぎつつ、新しい創造性を発揮するパチスロ・パチンコ機をマーケットに送り出しています。

また、変化の激しいマーケットに柔軟に対応するべく、絶えずリサーチを続け、それに基づく機種開発に注力しています。

沖ドキ!GOLD

アナザーゴッドハーデス-解き放たれし槍撃ver.-

周辺機器で実現する新たな付加価値

これまでも周辺機器市場の先駆けとなる従来にない新機能開発に積極的に取り組んできた当社は、周辺機器新商品としてスマート機完全対応ユニット「EZシステム」を2022年11月より市場導入しております。コンテンツ機と並ぶ集客を目的とした周辺機器で実現できる新たな付加価値を「EZシステム」にて展開し、次世代のパチンコホールを創造します。

優れた特許技術の創造

当社は、パチスロ業界の黎明期に、「前段判定方式」という画期的な技術を開発し特許を取得しました。この技術はパチンコホールやユーザーに歓迎され、その後の市場拡大の大きな要因となりました。ほかにも、業界の発展に大きく貢献した技術・特許を数多く保有しており、今後も革新的な技術を特許化することで、優位性を確保してまいります。

地球環境への配慮

私たちの生活は常に地球とともにあり、環境への配慮は企業命題と言えます。遊技機の製造を行うにあたっても例外ではありません。単に価格だけを重視するのではなく、品質・納期・コストのほか、環境への配慮も怠らず、部品の調達から製造方法にいたるまで環境への負荷が少ないものを取り入れ、3R（Reduce：削減・発生抑制、Reuse：再使用、Recycle：再生）を意識した「ものづくり」に取り組んでいます。

フィリピン OKADA MANILA®の推進

世界有数のビーチリゾート、風光明媚な環境、急成長を続ける中国を中心としたアジア各国からのアクセスの良さなど、カジノリゾートの新たな最適地として注目を集めるフィリピン・マニラの湾岸エリア。この魅惑の地にて、これまでのフィリピンにおけるカジノの概念を覆すような本格的なカジノリゾートを提供し、世界の皆様に最高のエンターテインメントをお届けします。

アジアを中心に拡大するカジノリゾート

現在、約130の国や地域にカジノがあります。ヨーロッパやアメリカ、アジアなど、世界の有名なリゾート地にはほぼ必ず、カジノを中心とするエンターテインメントがあります。アジアでも中国マカオやシンガポール、ベトナム、そしてフィリピンと、続々とカジノが建設されています。

2020年に起こったパンデミックによる各国による渡航制限の影響で、カジノ市場も大きな影響を受けましたが、各国政府の渡航規制の緩和や各カジノ所在国の現地のお客様の回帰もあり、回復基調にあります。

フィリピン国内の市場基盤はほぼパンデミック前の水準まで回復しています。海外旅行客に関しては、フィリピン観光省によると2023年も回復基調が続き、順調に推移する見込みとなっています。

豊かな観光資源と競合地域に対する優位性

フィリピンは大小合わせて7,000を越える島々からなり、周囲を海に囲まれた風光明媚な国です。未開発の自然が豊富にあり、温暖な気候に恵まれ、5つの世界遺産を有する観光資源の宝庫であり、都市からの旅行者に非日常的空間および時間を提供できる高いポテンシャルを秘めています。先進国や経済発展の目覚しい中国都市部の日常は多忙を極め、これらの地域からの旅行者に非日常を提供することができるフィリピンのカジノリゾートの潜在需要は、非常に大きいものと見込まれます。これに加え、フィリピンの国民性である「フィリピーノ・ホスピタリティ（おもてなしの心）」は、観光地として非常に魅力的な要素と言えるでしょう。

なかでもマニラは、アジアの主要都市から航空機で4時間圏内にあり、中国からの所要時間は、競合するシンガポールに比べ、概して1時間30分～2時間30分程度短く、中国最大の都市、上海からは3時間30分程度です。また日本や韓国からの距離も総じて近く、立地面では競合するシンガポールより優位にあります。

パンデミック前の2019年には約826万人の外国人観光客が訪れたフィリピンは、観光地として高いポテンシャルを持っています。2022年（12月19日時点フィリピン観光省発表）は246万人でしたが、2023年は480万人と予測され、2025年までにはパンデミック前の800万人水準に回復することが見込まれています。

アジアの新しい高級リゾートの創造

当社グループは、フィリピンにおけるカジノリゾートの計画にもとづき、2008年にカジノ運営の暫定ライセンスを取得し、2010年に経済特区認定を受け、税務上の優遇とともに外資100％でのカジノ事業の運営が許可されました。そして2016年12月、ついに統合型リゾート施設「OKADA　MANILA」の運営を開始し、2022年にはカジノ事業に関連するレギュラーライセンスを取得しました。最高級のホテル、世界最大級のマルチカラーの演出による噴水「ザ・ファウンテン」、東南アジア最大級のナイトクラブやビーチクラブを有する全天候ドーム型施設「コーブ・マニラ」等の施設を完備し、そして、フィリピン国内のお客様に人気の高いレストランやリテイルを強化し、多くの国内客も取り込むことでマスマーケットにおいて営業規模を広げ拡大しており、世界でも有数の最高級エンターテインメント・リゾート施設を目指してまいります。

スポーツ・協賛活動

当社は、エンターテインメントを創造する企業として、スポーツの振興、文化の育成、
地域社会への貢献に繋がる活動に積極的に貢献していきたいと考えています。
人々を楽しませ、感動を与えてくれる様々な活動への協賛は、
豊かで平和な社会の実現につながるものと確信しています。

ユニバーサルエンターテインメントアスリートクラブ（略称：ユニバーサルAC）

アスリートクラブの選手たち

当社は、「楽しさ」と「遊び」を世界中に発信し続けるグローバルエンターテインメント企業として、一生懸命に頑張る人を応援したいという思いから、2004年1月に「アルゼアスリートクラブ（現：ユニバーサルAC）」を設立。数々の名選手を育て上げた故・小出義雄監督の指導のもと、選手・スタッフが一丸となって日々切磋琢磨し、「夢の実現」に向かって努力してきました。
厳しい練習を乗り越えた選手たちは、主要な大会で数々の輝かしい成績を残しています。その活躍は国内にとどまらず、2011年の世界陸上韓国テグ、2012年のロンドンオリンピック、2013年の世界陸上モスクワ、2015年の世界陸上北京、2016年のデカネーション、2019年のアジアマラソン選手権、2023年の杭州アジア競技大会など、数々の国際大会に日本代表選手を輩出してきました。
ユニバーサルACは、2024年に創部21年目を迎えました。スポーツの力で日本を明るくしたい、とひたむきに努力を重ねる選手たちに、これからも熱いご声援をよろしくお願いいたします。

■ 近年の主な成績

鷲見 梓沙	2015	世界陸上北京大会	5000m	日本代表
和久 夢来	2016	第22回世界ハーフマラソン選手権	ハーフマラソン	日本代表
	2019	北海道マラソン	フルマラソン	優勝
		第17回アジアマラソン選手権大会	フルマラソン	4位（日本代表）
	2021	名古屋ウィメンズマラソン	フルマラソン	4位
	2022	名古屋ウィメンズマラソン		MGC獲得
	2023	杭州アジア競技大会	フルマラソン	日本代表
ナオミ・ムッソーニ	2021	第105回日本陸上競技選手権大会	5000m	1位（オープン参加）
チーム	2021	第41回全日本実業団対抗女子駅伝競走大会	駅伝	7位
大西 響	2022	第50回全日本実業団ハーフマラソン大会	10km	2位
猿見田 裕香	2022	第105回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走	シニア8km	2位
青山 瑠衣	2022	第10回大阪マラソン・第77回びわ湖毎日マラソン統合大会	フルマラソン	3位

岡田美術館杯　女流名人戦

女流棋士の誕生とともにスタートした将棋の「女流名人戦」は、現在行われている女流タイトル戦の中で、最も古い歴史と伝統をもつ棋戦です。
当社は1993年（第20期）より、女流棋界の発展、ひいては日本文化振興への貢献という意味も込めてこの「女流名人戦」に特別協賛してきました。
2023年（第49期）の女流名人戦は、9度目のタイトル挑戦で悲願の初タイトルを獲得した伊藤沙恵女流名人にリーグ初参戦で挑戦権を得た西山朋佳女流二冠（女王、女流王将）が挑戦しました。初防衛か初戴冠か。注目の五番勝負は西山女流二冠が3勝１敗で女流名人を獲得しました。
当社は今後も、日本とアジアの文化を世界に発信し、広く文化の創造に貢献することを使命とする岡田美術館から「女流名人戦」に新たな風を吹き込み、さらなる成長と発展を目指してまいります。

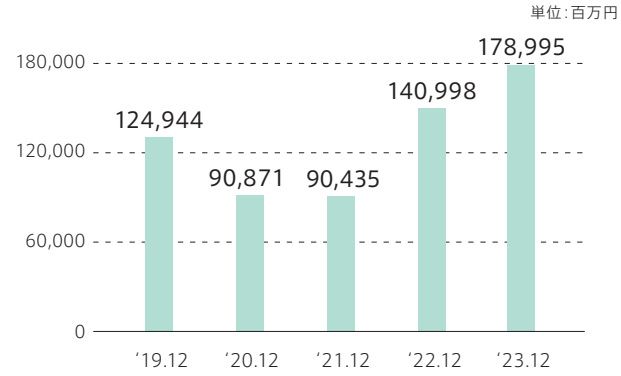
※肩書は2023年4月当時

初戴冠を果たした西山朋佳女流名人（第49期／2023）

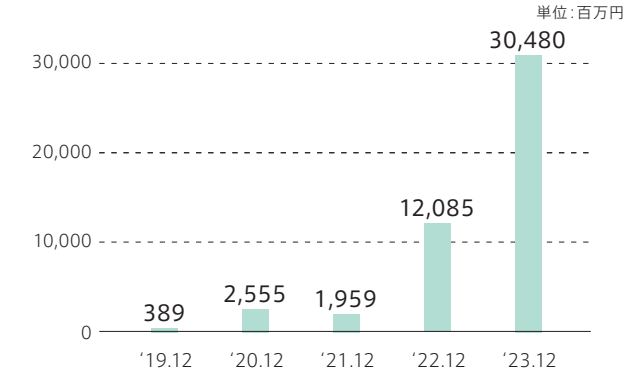
UNIVERSAL ENTERTAINMENT

財務ハイライト（連結）

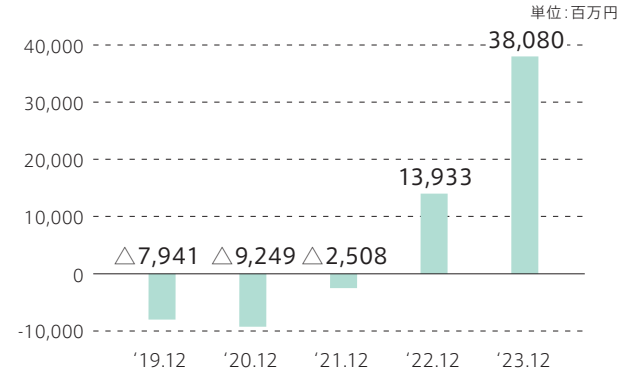
売上高



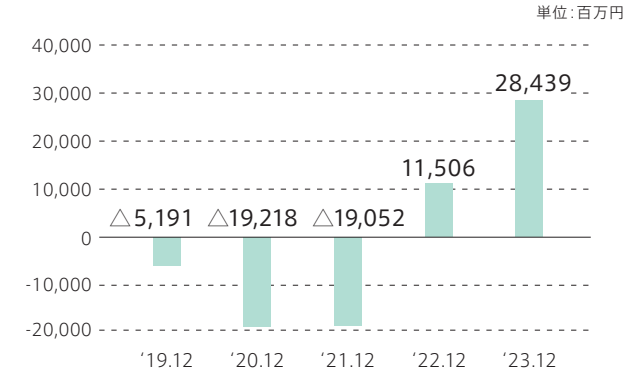
営業利益



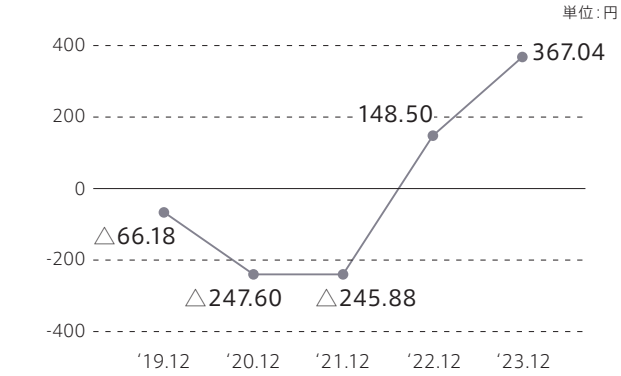
経常利益



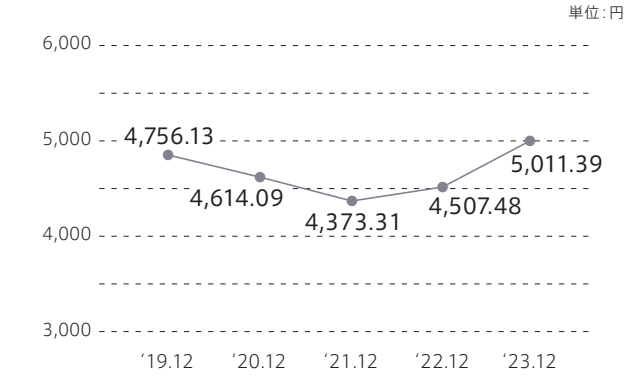
親会社株主に帰属する当期純利益



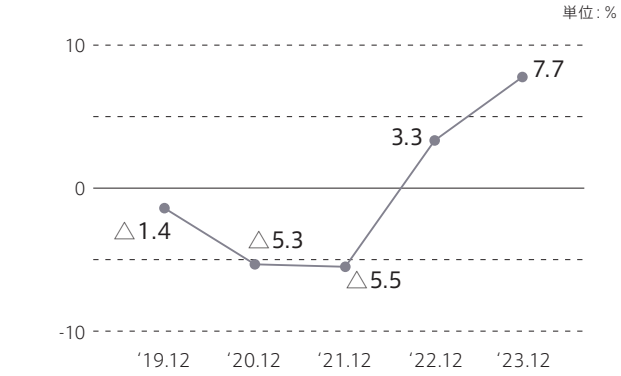
EPS（一株当たり純利益）



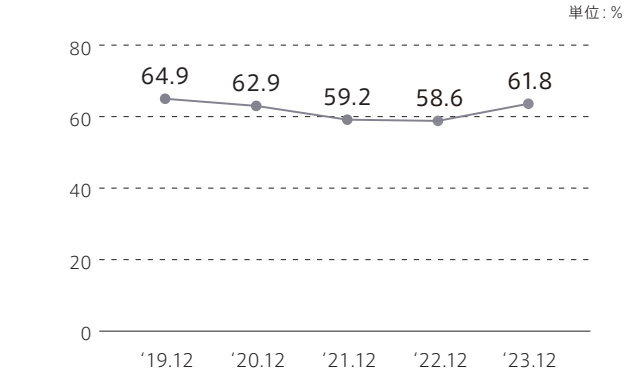
BPS（一株当たり純資産）



ROE（自己資本利益率）



自己資本比率



UNIVERSAL ENTERTAINMENT

沿革

1969.12 **ユニバーサルリース株式会社**　ジュークボックスのリース業を目的として設立

1970. 7 遊技機の製造を開始

1971.10 社名変更

株式会社ユニバーサル

1975. 9 栃木県小山市に新工場を建設、各種ゲームマシンの製造を開始

1980. 3 栃木県小山市に新工場を建設（小山第二工場）、風俗営業業界の回胴マシンへ進出

1988. 4 鳥取県米子市に工場を取得し、アミューズメント機の生産を開始

1973.6 販売部門が分離独立

ユニバーサル技研株式会社

1975.5 社名変更

ユニバーサル販売株式会社

1979.12 開発部門が分離独立

ユニバーサルテクノス株式会社

1993.4 合併

1998. 4 東京有明に本社移転。ユニバーサルテクノス株式会社とユニバーサル販売株式会社が合併し、アルゼ株式会社に社名変更

アルゼ株式会社

1998. 9 株式を店頭公開

1999. 8 千葉県四街道市に新工場を建設（現パチスロ・パチンコ遊技機製造工場）

2000.10 ARUZE USA, INC.（現連結子会社）の株式取得

ARUZE USA, INC.がValvino Lamore, LLCに出資

2002. 9 Valvino Lamore, LLCの全保有株式をWynn Resorts, Limitedへ現物出資

2004.12 ジャスダック証券取引所に株式を上場

2005. 3 米国ネバダ州ゲーミングコミッションが、Wynn Resorts, Limitedの100％子会社であるWynn Las Vegas, LLCのカジノ運営ライセンスおよび、当社がWynn Resorts, Limitedの株主として適格性を有していることを承認

2006. 7 米国ネバダ州におけるゲーミング機器製造者ライセンス取得（無期限更新可能）

2008. 6 委員会設置会社へ移行

8 フィリピンにおいてカジノリゾートを運営するためのプロビジョナルライセンスを取得

2009.11 社名変更

株式会社ユニバーサルエンターテインメント

2010. 3 フィリピンにおいて、当社グループのカジノリゾートプロジェクト「マニラベイリゾーツ」が経済特区認定を受けるとともに、カジノ事業の外資規制も解除

4 大阪証券取引所とジャスダック証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQに上場

6 監査役会設置会社へ移行

2012. 1 マニラベイリゾーツプロジェクト着工式を開催

2013. 7 東京証券取引所と大阪証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）に上場

10 箱根に岡田美術館を開設

2014. 6 中国国立劉海粟美術館と岡田美術館が姉妹提携

2016. 3 サミー株式会社と合弁会社「株式会社ZEEG」設立

7 フィリピンにおけるカジノリゾートプロジェクトの正式名称を「OKADA MANILA」に決定

12 OKADA MANILAのカジノ運営許可証を取得
カジノ運営を開始

2017. 3 OKADA MANILAに世界最大級のマルチカラー噴水「ザ・ファウンテン」完成

12 OKADA MANILAに巨大ガラスドーム施設「Cove Manila」オープン

2018.12 OKADA MANILAのタワーA完成

2019. 7 カジノ関連機器による自動為替交換システム「Multi Currency System」および
カジノスロットマシン専用顧客優遇システム「Slot Program Play System」をリリース

2021.11 OKADA MANILAのタワーB完成

2022. 4 東京証券取引所の市場区分の見直しに伴い、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）から
東京証券取引所スタンダード市場へ移行

会社概要

2024年4月26日

会社名	株式会社ユニバーサルエンターテインメント
本社	東京都江東区有明三丁目7番26号　有明フロンティアビルA棟
代表者	代表取締役社長　徳田 一
創業	1969年（昭和44年）12月2日
設立	1979年（昭和54年）12月10日
資本金	9,800万円
営業所	北海道、盛岡、仙台、北関東、新潟、埼玉、東京、横浜、静岡、名古屋、金沢、大阪、神戸、岡山、広島、四国、九州、南九州［全国18ヶ所］
工場	四街道（千葉）、小山（栃木）
海外拠点	アメリカ（ネバダ州）、フィリピン（マニラ）、香港
事業内容	パチスロ・パチンコ機および周辺機器等の研究・開発・製造・販売。フィリピン・マニラでの統合型リゾート（IR）事業。
取引銀行	三井住友銀行、三菱UFJ銀行、三井住友信託銀行、りそな銀行、SBI新生銀行、足利銀行

株主メモ

2023年12月31日

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月開催
基準日	定時株主総会　12月31日 配当　6月30日、12月31日 （そのほか必要があるときは、あらかじめ公告いたします）
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
郵便物送付先 お問合せ先	〒168-0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部 （電話照会先）0120-782-031（受付時間 土日・祝日・年末年始を除く9:00～17:00） （URL）https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/

【株式に関するお手続きについて】

住所変更のお届出およびご照会や配当金の振込方法・振込先のご変更、その他単元未満株式の買取・買増請求などの、株式に関するお手続きについてのお問い合わせは、口座を開設された証券会社までお願いいたします。なお、証券会社で口座を開設されていない株主様につきましては、上記の三井住友信託銀行の電話紹介先までお問い合わせください。

公告方法	電子公告により行います。 （事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行うものとします）
上場証券取引所	東京証券取引所スタンダード市場